

竹下復興大臣臨時記者会見録

(平成27年2月22日(日) 15:26~15:35 於) 宮城県岩沼市)

1. 発言要旨

今日は、多賀城市、名取市、岩沼市の3つの市を訪問させていただきました。それぞれの町で取り組んでいらっしゃる復興に向けての動きというものを、しっかりと見せていただき、そして、幾つかの災害公営住宅で話し合いもさせていただきました、貴重な意見もいただきました。

また、岩沼市では、千年希望の丘公園を市長と一緒に訪問をいたしまして、他の地域にはない特徴的な取り組みをしていらっしゃる、しかも、他の地域より早く復興を、一つ一つ実現していらっしゃる姿も、しっかりと受け止めさせていただいたところでございます。また、復興の途上にあるところもたくさんございましたけれども、一步一步、間違いなく進んでいるなということは、実感をさせていただいた次第でございます。

また、多賀城の菊地市長、それから名取の佐々木市長、そして岩沼の菊地市長も、それぞれ懇談をさせていただき、意見交換もさせていただきました。厳しい意見ももちろんいただきましたし、こちらからも厳しいことを多少、おいしいこともお話をさせていただいた状況でございます。

私としては、集中復興期間が来年度いっぱい終わると。できれば、その次の新たな単位を一つの固まりとして、復興というものを見詰めていく、そういう絵姿を描いていきたい。そのためには、何としても、何ができて、何ができていないかというレビューを、しっかりとやって、その上で、その後の復興のことに向かっていかなければならないといったようなお話もさせていただきました。

さらに、復興はステージごとにいろんな要望が違ってまいります。まだ高台を切っている所はそっちが優先ですし、しかし、この岩沼市のように、今日はこの玉浦西で見させていただきましたが、もうこれから、皆さんが移り住んでくると。ほとんどの人が仮設住宅を出れるという状況になっている所では、やっぱり心の健康、あるいは体の健康、あるいは高齢者が多いという実情をどう克服していくかといった、見守りとか、保健師の皆さん方が対応していただかなければならないと。いわば、ソフト面での充実というのが、復興の大きなテーマになってきていると。ステージ、ステージで、復興をやっていかなければならない仕事というのは、一緒じゃないと、違うんだということも、今日も改めて感じさせていただきました。

いずれにしても、力を合わせて、しっかりと復興していかなければならないと。集中復興期間の5年が終われば、復興が終わるか、そんなことはありません。私たちは止まりません。必ず復興をやり遂げるまで、復興をやるのが復興であるという認識のもとに、これからもやり遂げていくということは、市長さんにも申し上げましたし、被災地の皆さんに、「やり遂げるまでが復興です」ということを、しっかりと今日もお話をさせていただいたところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 特に被害が大きかった閑上では、今まで手を合わせて、実際に日和山に登って、閑上地区をご覧になったと思うんですが、大臣から見て、閑上地区の印象はどういったものだったでしょうか。

(答) 正直言って、スタートが、残念ながら、いろんな事情がありまして、遅くなったということがありますので、まだまだこれからだなということを、非常に強く感じた地域の一つでございました。

特に、災害に遭って、それを復旧する地域と、土地区画整理事業というものをその背後でもやっていたら、2つの制度の間で大きな溝がある、ということも市長から伺いまして、そうだなと。我々は単純に復興事業と土地区画整理事業を併せてやったら、そのほうが早くいくんじゃないか、ということを書いていた時期があったことは事実なんですけど、なかなか、それも一筋縄ではいかないなど。やっぱり、これはもう役所側でいろいろ考えていかなければならないし、さらに、我々の対応としては、それを市町村に、使い道は極めて自由なお金、基金をお渡しいたしておりますので、それをもっともっと活用してもらいたいな、という思いを抱きました。市長も、そのことでようやく乗り越えることができたということをおっしゃってございました。

閑上は、あの地域に帰りたいという人、もう既に外にいるという人、いろんな人が、残念ながら4年近い年月が経ております。だけど、「帰りたい」という方には、必ず温かい家庭を、温かいふるさとを取り戻してもらおう、これは復興の原点だと、こう思って、これからも支援していこうと思っております。

(問) 復興が進んでいるということですが、住民の方との意見交換をされて、進んでいる中でどんな要望があったでしょうか。

(答) 子どもたちが帰って来れる、あるいは、現実に子どもが、ガヤガヤいるような地域に、そういう地域にしたいんだと、そういうふうに考える市なり政府なりとしてできることも、考えてくれという要望がありました。これは、私はものすごくもったもなお話だと思って、聞きました。

我々の世代だけが生きていくのではなく、子どもたち、あるいは孫たちに、どうこの地域を引き継いでいくか、このふるさとで、新たにふるさとになって来る玉浦西という地域を、どう引き継いでいくかというのは、非常に大きな、私は今を生きる、これはわれわれだけじゃなくて、全ての人が背負っていかなければならない課題だと、こう思っておりますので、その意味で、次の世代に引き継ぐ、われわれも努力するけど、町も政府も考えてくれというのは、ごもっともな要求である、というふうに受け止めました。

(問) 4年を間もなく迎えるに当たり、大臣に就かれて感じた課題と、それに対してどのように取り組んでいきたいかというところをお願いします。

(答) 課題は、正直言って、全く違います。今日は、たまたま平野部の多いこの多賀城、名取、岩沼という4つの市を訪ねましたが、三陸に行けば三陸の事情がある、福島の

原発のエリアへ行けば、それぞれまた違う事情がありまして、課題というのは、それぞれの地域、地域で、全く違うなど。その地域、地域の、被災された方々に寄り添う形で、復興の後押しをしていく、あるいは、ハード・ソフトを含めて、事業を進めていくというのが、我々の仕事であるというのは、以前からそう思っておったんですが、歩けば歩くほど、一人一人違うなど、一つ一つ、地域、地域で違うなどということを改めて実感しておりますし、それに合った対応をしていかなければならないと、これも実感をしているところでございます。

(以 上)